

松徳 憲二 議員

(一問一答方式)



- ①田んぼダム
- ②DXの推進

田んぼダムについて

問 今年度から田んぼダムの実証実験を行っているが、実施状況と期待できる効果は。

答 田んぼダムは、流域治水プロジェクトに位置づけている貯留施設の拡充方策の一つです。

これは、特殊なせき板を田んぼの排水溝に設置し、大雨の際に雨水を水田に一時的に貯留することにより、下流域への流出抑制効果が期待でき、水田が持っている多面的機能を有効に発揮させるものです。

今年度、愛媛大学からも助言、指導をいただきながら、西大洲及び新谷の平坦部2か所、蔵川と大谷の中山間地域2か所の水田で耕作農家の協力を得ながら実証実験を行いました。

その結果としては、降雨時の貯留状況を確認し、排水のピーク時間を遅延させることが実感できたことに併せて、耕作農家からは貯留による畦畔の崩壊などの影響もなく、一時的に雨水の流出を抑制する効果を確認できたことから、今後も協力していきたいとの声を頂いています。

年度内には、関係農業者への説明会などを開催して、流域治水や田んぼダムについて理解を深めいただきながら取組を推進し、来年度は、内水による湛水しない平坦部の水田地域や畦畔の構造が強い中山間地域の水田などで面積を拡大して実証実験を実施し、さらなる効果や問題点等を検証します。

DXの推進について (DX人材育成支援事業の実施効果)

問 ワーキンググループの立ち上げや研修により、どのような効果が期待できるのか。

答 職員研修では、①業務改善とその再構築、効率化である「ビジネス・プロセス・リエンジニアリング」、②活動や物事がうまく運ぶようなかじ取りで

ある「ファシリテーション」、③市民の体験を重視してデザインする考え方である「デザイン思考」、④「官民共創」、⑤証拠に基づく政策立案の「エビデンス・ベスト・ポリシー・メイキング」、⑥デジタルに対する適切な理解と自ら活用できる力である「デジタルリテラシー」、これら6つのテーマを習得するように設計しており、業務を市民目線で構築するため、これまでとは視点を変えた研修を行いました。

一方、ワーキンググループでは、研修で習得したスキルや考え方を活用しながら、参加者20人が自分自身のテーマによって問題解決と施策実現に向けた検討を行っています。

これらの成果は、市長をはじめDX推進本部委員に対して1月に施策案が提示されます。

今回の取組を通して、多様な利害関係者と共創できる能力や、従来の手法を抜本的に見直し変革を生み出すことができる能力、さらには施策の精度を上げるためのスキルや知識、これらを身につけたDX人材が育成され、その能力を今後の業務に発揮してもらうことを期待しています。

DXの推進について (行政手続きのオンライン申請)

問 オンライン申請の進捗状況は。

答 本市では、「LoGoフォーム」という自治体専用の電子申請システムの検証について、大洲市カレンダーのネット販売申込み申請や県知事選挙投票率速報の集計などで実証し、その実用性や効果を検証しています。そうした検証の最中、愛媛県が令和5年1月からサービス提供を開始する「e-TUMO」という電子申請システムについて、令和5年度から県市町連携による共同利用の提案をいただきました。

県から提案いただいたシステムはコスト面でのメリットや、将来的には申請から内部システムへのデータ連携も可能などの理由より、「e-TUMO」を採用すべきであるという判断に至りましたので、令和5年度からの共同利用に向けて、当初予算に所要の経費を計上したいと考えています。

今後も、市民に生活の利便性が向上したと実感していただけるよう、効率的かつ効果的な施策事業を展開し、誰一人取り残されないDXを推進します。